

おれんじニュース

No285

2013年12月号



11月2日(土) 佐原さん、米寿登山で霧島に行く。颯爽とえびの岳をキャンプ場に下りる佐原さん。

今月号の記事	倶利伽羅谷～阿蘇中岳、霧島、韓国岳、えびの岳、黒峰、琴の尾岳
--------	--------------------------------

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年12月	2014年1月	時 間	場 所
運営委員会	11日(水)	8日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	22日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館

10月20日、紅葉を求めて倶利伽羅谷へ・・・又来よう・・・



● 倶利伽羅谷
での男と
女???

● 砂千里を過
ぎて中岳へチ
ヨット休憩



● よく見る
と遠くに2
班の組が歩
いています。

● 雄大な景
色を撮るに
は命がけ!



5時間バスに乗ってすぐ えびの岳へのぼりました。



● 綺麗な赤松林
を並んで歩き
ました。松茸はあ
りませんでした。
笑い

● いざ出発
佐原さん健脚!



● 東部の富永
さんも参加し
て下さって。

● この辺りは
紅葉もきれい
で歩き易い道
でした。



2013/12月の山行



部	技術研修部	山行部	自然保護部	ひまわり
月・日	12/1(日)	12/8(日)	12/10(火)	12/13(金)
山名(行事)	求菩提山(782m)	郡岳～経ヶ岳	井樋ノ尾岳	小浜～唐比
地 図	下河内	多良岳	長崎東北部	肥前小浜
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 6:00	アクロスプラザ 8:30	諫早駅県営ハスターミナル 雲仙行き 8:50
難易度	初級		初級	初級
帰着時間	20:00	20:00	17:00	17:00
歩行時間	3h	6h	4h	5h
交通手段	マイクロバス	マイカー		公共交通機関
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	ト仙の郷	?	?	有り
参加費	5,000円	1,000円		交通費のみ
申込期限	定員になり次第	随時	随時	随時
集 約	佐原	田中	中里	林
備 考	修験の山です。 厳しい冬に尋ね ましょう	訓練登山です	地元の山を知ろう	冬の海岸の道をして てく歩きます。 結構歩きますよ。
感想文提出	12/10	12/18	12/20	12/23

オレンジ忘年会

日時：12月15日(日) PM6:00～

場所：魚荘 (宇都町3-41 ☎22-0039)

参加費：4600円

集約：佐原



2014 / 1 月の山行



部	技術研修部	自然保護部	山行部	ひまわり
月・日	1/12(日)	1/13(月祝)	1/19(日)	1/24(金)
山名(行事)	多良岳(黒木から)	祐徳稻荷参詣	九重・黒岩山 上泉水・下泉水	島原散策
地 図	多良岳		湯坪	
集合場所	西諫早駅 8:00	諫早駅 7:45	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅発 8:02 島鉄
難 易 度	初級	初級	初級	初級
帰着時間	16:00	16:30	18:00	16:00
歩行時間	4h	2h	4h	4h
交通手段	マイカー	JR&徒歩	マイクロバス	島原鉄道乗り放題
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉		有り	有り	?
参加費	1000円	交通費のみ	5000円	1000円
申込期限	定員になり次第	随時	定員になり次第	随時
集 約	佐原	中里	田中	林
備 考	新年祈願登山です。 天候によっては冬山の装備が必要です。	鹿島では酒蔵めぐりをして歩きます。(*^_^*)	多分アイゼンが必要になるでしょう。冬山の用意でどうぞ!	島鉄の千円で乗り放題の日です。大いに得した気分ですよ。
感想文提出	1/22	1/23	1/29	2/4

技術研修部だより(セルフレスキュー)

12月21日(土)

西諫早駅 9:30 集合

*新ルペルソの使用法 *ユマール登攀 *救助器具の使用法

*どこよりも技術の優れた登山グループを目指して、知識と技術を身に付けましょう
レスキューの技術は日々進化しています。常に新しい知識と技術で指導します。

*事故をおこさない登山グループを目指します。

2013年10月/11月の山行報告



10月20日(日)

倶利伽羅谷～砂千里～中岳(1506m)

(参加者)川原、佐原、金丸(直)、岩永、鎗水、松岡、中須賀、山下、高森、林(和)、林(孝)、國分、中里、野中、山口、小山、川内、兵庫、久保(元)、久保(陽)

20名

(行程) 諫早駅裏 6:20～牧野道登山口 10:40～中岳 14:08～15:50 登山口～19:50 諫早

(感想 1) 当日天候は曇。気温は15℃前後になるとのことで山頂はかなり風が強く吹き、冷え込むだろうと防寒具の用意をして行った。しかし当日の朝、半袖でもさほど寒くない気温であった。

10時40分牧野道登山口を3班に分かれて出発。私は2班でした。11時25分倶利伽羅谷展望所より紅葉はまだでしたが倶利伽羅谷を見下ろすことができました。11時45分行儀松との合流地点の先で30分ほど昼食をとり休憩。ここから1,2班とゆっくり班が分かれ、登山口駐車場で待ち合わせとなりました。ススキをかきわけ道を探しながら岩場にたどり着きそこから急登を登ること約30分。展望より砂千里ヶ浜を見渡すことが出来ました。阿蘇の草千里ならよく耳にしますが砂千里は初めてでどんなものか興味はありましたが一面が火山灰で覆われた平原でした。

14時08分中岳1506mに到着。記念撮影は男女2人の外国人(ベルギー)登山者からシャッターを押ししてもらいました。その後火山ガス警報のアナウンスが流れ無事下山できるか少し不安になりました。尾根を歩いている途中慰霊碑があり、PLの國分さんより軽い気持ちで登山した地元の中学生数人、遭難し亡くなったとのことでした。その現場から周囲を見渡せば辺り一面砂や岩場で、すぐそこに町や道路も見え、ここから楽々降りていけそ



うな所だった。山は天気の変化が激しく、いろんなことが起こり、この中学生たちも遭難したんだろうな、登山の準備は遭難した場合に備えてしておいたほうがいいと思いました。頭の上をヘリコプターが頻繁に行き交い、火山ガスの警戒を強めているようでした。私は注意書きにも書いてある通り(二酸化硫黄は水に溶けやすい性質なので水で濡らしたタオル等で口・鼻をふさぎ体内に入るのを防ぐことを)実行しました。風向きの方角など考えどのコース

で下山したらよいか検討しながら無事下山。火山ガスが予測される登山は、風向きを考えた下山コースの把握をしていく必要があると思いました。縁結びと良縁成就に御利益のある阿蘇山本堂西巖殿寺に15時45分到着。ゆっくり班の方はすでに到着されていました。久木野温泉には入れず諫早に向かい自宅に20時頃到着。皆さんのおかげでまたいい経験をさせていただくことが出来ました。本当に有難うございました。(久保 陽子記)

(感想2)

私には久しぶりの阿蘇・・・参加20人、空は曇り 雨でないだけラッキー！ロープウェイでしか行った事がなかったので 今回のコースは阿蘇の雄大さを 改めて感じながら歩きました。

火口の回りをゆったりと 進みながらも 途中の風景には 圧倒されました。

誰かが言いました。「まるで マチュピチだ!」「グランドキャニオンだ!」ホント そうなんです。もうペルーにもアメリカにも行かなくていいですよ、阿蘇に行きましょう! 自然は偉大ですね、つくづく感服します。 遠くに目をやると 緑のビロードの絨毯みたいな山並、絵こころがあれば・・・頼りない頭にインプットするしか有りません。途中 出会ったベルギーのお二人 Mr久保さんが 流暢な英語で会話されてた。足長のお二人はアツと言う間に遠くへ・・・ひたすらアスファルト道を歩いて 阿蘇山ロープウェイ乗り場で ゆっくり班と合流。 この日は 火山ガス発生の為 登山もロープウェイもダメだったとか、知らぬが仏・・・私達は てくてく下ってきたのです。今回も温泉はパスでしたが秋の阿蘇を堪能した一日でした。楽しかったです。プランをたて 下見をしてくださった方々 有難うございました。(高森 記)

11月2日(土)～3日(日)

佐原さんの米寿を祝う韓国岳・えびの岳

(参加者) 川原、中須賀、兵庫、福岡、松岡、円能寺、間ノ瀬、佐原、田村、林田、金丸(直)、林(和)、中野、山口、下釜、田中(静)、高森、山本、川内、國分、岩田、山下、

外(富永、本田、外山) (25名)

鹿児島、えびのメンバー(溝口昭、松元真一、鬼塚照美、和田悦子) (4名)

(行程) 2日: 西諫早駅 6:30～神野辺(國分さん、外山さん乗車)～えびのIC～えびの登山口 11:30～えびの岳頂上 12:48、えびの岳(横断幕を持って記念撮影)一下山一えびのミュージアム一白鳥山登山一白鳥山頂上 14:38～下山～えびのミュージアム～深山荘 16:30

- 3日: ①矢岳、竜王岳、炭化木の谷
②烏帽子岳
③韓国岳

(感想) 1 佐原さんの米寿を祝う一泊二日の霧島山系へ、オレンジ会員 22 名、長崎の富永さん、岩田さんも加わり総勢 25 名を乗せ出発。佐原さん、バスの中では 11 月にも関わらず半袖姿でおしゃれな出で立ち。

途中、鎗水氏編集の DVD「徹子の部屋」が映し出される。今日のお客様佐原満子さんという設定で 28 年間の登山の歩みが映しだされた。全国の山々を大きなザックを背負って、知性派の美しい凛とした素敵な佐原さんを感じることができた。若い頃の川原さん、福岡さんのお姿に歓声あり、笑いありで楽しいドライブであった。。

えびの高原に到着、鹿児島島の松元さん、他 3 名が合流し「えびの岳」へ。途中、樹齢何十年、いや、数百年もあろう赤松林、さすが、国立公園である。赤や黄色の紅葉の木立の中を通りぬける。どこを見ても絵になる景色の美しさにとても感動した。えびの岳に到着し、「祝 佐原さん 米寿 霧島登山」の横断幕を前に記念撮影。佐原さん、おめでとうございます！

さらに、白鳥山へ。緩やかに登っていくと「二湖パノラマ展望台」より、眼下に、韓国岳、その前に白っぽく見える硫黄山、それに火口湖の白紫池、六観音御池の紅葉が水面に写しだされてとても穏やかな気分になった。白鳥山に登頂後、国民宿舎深山荘へ移動。



お祝いの祝宴が始まる。佐原さんの入会時の気持ちを書いた「オレンジニュース」が中野さんにより朗読され、知性が満ちあふれており祝宴を盛りたてた。その後、次々と出し物が出てコーラスあり、ギター演奏あり、カラオケあり、仮装ありで盛大な中に終わった。そこには、オレンジの会員の佐原さんに対する敬意、長崎から、鹿児島からと参加するその親交の深さ、28 年前のオレンジニュースがあったこと等々とても感じる物が多く、佐原さんの 28 年間のオレンジで

の活動が素晴らしいものであったことを入会 5 カ月の私に十分感じる事ができた。

翌朝、雨を心配しながらレインウェアを付け韓国岳へ（他に炭化木の谷コース、鳥帽子岳コースに分かれる）15 名。硫黄山登山口より登る。4 合目で後ろを振り向くと昨日の白鳥山、二湖を臨みながら登っていくが、段々雲の中に入り次第に雨になる。5 合目より火口縁に沿って登っているらしいが、樹木もなく溶岩の塊の上を歩いていることだけはわかる。韓の国まで見渡せる程の大パノラマのはずであるが、と想像しながらオレンジのメンバーを見失わない様にと必死で歩いた。頂上に着くと風速 5 メートル、雨、温度 10 度、視界 5 メートルその中で集合写真。ここで感動！の筈が恨めしい。しかし、念願の登頂は果たせたので次の楽しみに取っておこうと思ひ直す。下山は北九州の外山さんと松岡さんの若かりし頃の音楽談義を背中で聞きながら楽しく下山できた。

今回、佐原さんの存在の大きさ、会員のお母さんの存在に尽きると感じた。佐原さんの歴史は、オレンジの歴史であり、佐原さんが感じられた 28 年前の感動は（人間愛、自然に対する敬意）私が今感じていることと何ら変わりなくオレンジ創部 35 年の今もその理念は脈々と

受け継がれていることを強く感じた。佐原さんの山に対する真摯な態度、自分を良く知る、日々の努力を惜しまない等教えて頂いています。これからもよろしく願います。そして、このような企画をして頂いた技術研修部の皆さまに心よりお礼申し上げます。

(林 和子記)

(感想) 2

「2013.11.2. 佐原女史米寿記念登山 In 深山荘異聞」

今回は佐原さんの米寿を祝福しての登山という事で、霧島に同行させて頂きました。

登山の話はさておきまして宿泊した深山荘での宴は、近来希に見る感動と抱腹絶倒の一夜となりました。

そんじょそこらではお目にかかれないいいモノを見せて頂きました。

往時のバスの中では鎗水さん作成のDVD—佐原さんのこれまでの山登りの軌跡—を放映されました。そして乾杯の後、佐原さんがオレンジ入会されて初めての感想文を中野さんが朗読されました。実に初々しく女性らしい優しさと細やかさに満ちた格調高い感想文で強く胸を打たれました。

次はオレンジの一寸見キレイ所(?)による「花は咲く」の合唱、天使の声というより天女の声というところでしょうか。最近入会された林和子さんが偶々合唱団に所属されていて彼女の指導のもとに特訓を重ね、まとめ上げるのは御存知、佐原二世の呼び声も高い山下さんで、素晴らしい仕上がりでした。

そして満を持して真打ち登場、謎の仮面の絶世の美女(?)。演じますのは我がオレンジの会長職を務める福岡さんで、腰まで深く深く切れ上がった脳殺スリットのピンクのチャイナドレス(娘さんのを借りてきて自分専用ではないとの事)、更に胸はダイソーのイベントコーナーで購入してきたというオッパイで決めて一百均ってなんでもあるんですね—自分もこのオッパイを揉んで大きくするという大役を仰せつかったのですが未熟さと緊張で残念ながら失敗してしまいました。更に特記すべきは遠路北九州からギターをかついで駆け付けた外山さんの



友情出演—浴衣姿でギターをかかえて大きく股を広げるものですから股間マル見え(一応黒いパンツ着用)で佐原さんはじめ大方の女性陣の目を釘付けにしました。

ギタリストとしての腕はともかくこれがもし演出だとしたらその芸人魂に脱帽します。

佐原さんも心底堪能された事とおもいます。

いつも思うのですが、毎度、山行の帰りの車中で川原さんにかからかわれて少女の様な笑い声で抗う仕草は本当にチャーミングで素敵だなと思います。

いついつまでも元気で山行されて下さい。Forever!

(松岡 記)



(感想) 3 炭化木の谷山行 (霧島山系、矢岳、竜王岳)

11/3 みやま荘 8:00 出発

メンバーは鹿児島の方ガイド 2 人に東部の T さんにオレンジ 3 人の少数精鋭で高千穂神社より 8:20 出発。

ガイドも火山噴火の後には始めてとかで 道が分かりにくく探しながらの進行である。

前夜の雨の為合羽を下のみ着用で 噴火後の枯れた松で見通しのある まるで映画のような景色の林を進む。

ならだかなハイキングコースをガイドは早足で歩く。汗がにじみ 皇子原分岐を過ぎ矢岳へ向かい暑さでカップを取り沢を横切る。 矢岳と竜王岳の鞍部へ向け登りになる。

水のない川を渡り紅葉の中 急登にかかり東の高千穂の峰はガスで見えぬが裾野は紅葉が素晴らしく、雲仙の九千部への登りから見た吾妻岳の景観に似ていた。

鞍部より 9:15 矢岳に向かい北側よりガスが上がり始めピストンで竜王岳へ向かう、
天気がよければ高千穂峰を眺めながらのハイキングなのだが残念。

頂上で地図確認後 10:50 今度は急降下の分かりにくい道を下り 枝尾根から見る紅葉にオレンジの T さんがグラデーションが素敵と感嘆の声を上げシャッターを押す、

下には切れ落ちた沢が見え炭化木がある谷だ、沢を奥へ進み次第に炭化木が大きくなり K さんに炭化木と並んでもらい写真を撮る、最後はまるで備長炭の大木に見える前で記念写真を取った。

切れ落ちた沢を戻り 11:30 方向が分かりにくい林をテープを探しながら進む、

ガイドの早足に疲れと空腹の中 皇子原分岐にたどり着く

バスとの待ち時間を気にして長い道のりを早足で高千穂河原へ着いた。12:50

(間ノ瀬 記)

11月9日 (土)

黒峰 (1283m)

(参加者) 鎗水、田中(静)、松岡、山口、本田、下釜、高森、中須賀、川原、兵庫、林(和)、佐原、山下、福岡、岩永、田村 (16名)

(行程) GPS による：西諫早駅 6:30—金立 7:33—久留米 IC—北熊本 8:49—松橋 IC9:18—馬見原両国橋 10:26—林道分岐 12:46(分岐を間違い往復 80 分ロス)—昼食—登山口駐車場 13:12—登山口 13:28(林道を行き過ぎ往復 10 分ロス)—一之瀬越え 13:44—黒峰頂上 14:07—下山—温泉—松橋 IC18:00—西諫早 19:40

(感想) 2 週間続けての宮崎方面への山行でしたが迷いもなく参加しました。

目的地近くまでバスはスムーズに進みましたが到着予定時刻が近づいてもなかなか登山口が見つかりません。

中須賀さん、鎗水さんに不安がよぎりはじめられました。道路も道幅が狭くなり巨岩が道の真ん中にあり、皆で取りのけたりしながら進みましたが、最終的には最初見つけた小さな道標があった所まで引き返しその林道分岐点近くで昼食になりました。

昼食のあと林道を進んだのですが登山口に入るのに行きすぎたりして少し戻って何とか黒峰に通じる道に出会いました。急坂を15分程必死で登ってハッと後を振り向くと、円錐形の珍しい形をしたトンギリ山(1250m)が聳えていました。

前方の方にはどっしりとした黒峰山頂が横たわっています。ピストンなのでザックを置いて登ってもいいよ、ということで道脇にザックをデポして頂上にたどりつきました。

皆の笑顔に迎えられました。

下山は急斜面だから十分に気を付けながら一歩一



歩おりました。

最初の予定ではトンギリ山まで足を延ばす予定でしたので少し心残りはありましたが、鮮やかな紅葉やススキが原が実にすばらしく充分満足した山行でした。

計画して下さった中須賀さんはじめ皆様にお世話になりました。(田村 記)



11月17日(日)

琴の尾岳(451m)

(参加者) 福岡、川原、兵庫、間ノ瀬、中里、工藤、林田、田村、川内、下釜、山口、高森、金丸、山下 (14名)

(行程) 西諫早駅発8:24~本川内駅着8:46~長与ダム9:00~琴の岳登り口9:24~烽火台跡10:25~琴の尾岳山頂10:40~昼食後大草へ出発11:25~松ノ瀬峠12:30~野川内~山川内13:30~大草駅で解散14:00

(感想) 9月の登山フェスタ以来の山行で、前日にズボンと帽子を新調して意気込んでいたが・・・朝起きるとドンヨリの鉛色の空にチョットがっかりした。登山フェスタでの雲仙岳が頭をよぎった。小雨の中黙々と進み、山頂に着いたが、視界もきかず強風で早々に下山、途中昼食を雨のしずくとともに震えながら、喉に流し込んだ。寒い!・・・早く帰りたい。心も体も冷え切って妙見岳Pに着いた時には「ホッ」とため息。放心状態で座り込んだ。それでも唯一救われたのは、登山道脇に可憐に咲く大文字草、秋のキリンソウ、名も知らぬ青紫色の小花と深緑のなかに艶やかな赤色の実をつけたヒデンマユミ(かな?)などの生命力に慰められたことを思い浮かべた。

今日はどうだろう不安と期待が交錯する

”なんちゃって”大袈裟な前置きはこれくらいにして。

長与ダムPで柔軟体操を行い出発、15分程すると「たんたん岩」なる標識が足を止め、Y女史が「たんたんて何？」の質問に数人の♂人は・・・♪たんたんたぬきの〇〇???・・・

これから先は言えぬ！！一寸微笑あり。しかし山早達は小声ながら♪たんたんたぬきの先を口ずさんだのを聞き逃さなかったのは、僕だけではなからう？

登山道は蜜柑畑のなかに続き、雨のしずくに濡れ一段と黄色が艶やかさをまし、たわわな完熟した果実が地面すれすれに垂れて食欲を誘った。誘惑に負けて思わず手が伸び、落下した蜜柑で喉を潤し「うまかー」「ほら食べんね」とすすめるY氏、「拾ってまでも」と言う女史も互いに談笑しながらの道のりであった。

雑木林を5,6分上ると烽火台跡があった。江戸時代に戦時の狼煙として使用されたものであるが、よく整備されている貴重な遺産である。先人たちにはどんな物語があったのだろうと思いを馳せた。

琴ノ尾岳山頂には、本川内駅から2時間ほどで到着、予想どおり展望台からは視界がきかず残念。琴ノ尾神社でおまいりをして恒例の記念写真をとった。

その後早めの昼食を公園東屋下でとる。

わいわい、がやがや楽しいいつもの時間である。

帰路は時間が早いこともあって、当初のルートを変更し蜜柑祭りの行なわれている伊木力へむかった。下山途中はゴミを拾う人、”グベ”の木に群がる人、その果実をほおぼる人など・・・人間関係が分かり易く面白い。またなかには下り坂を右往左往しながら、草花などを採取する女史もいて、Y女史から苦笑しながらも「自然保護部」が

それでいのかと窘められていたが、本人は「馬耳東風」「馬の耳に念仏」状態で思わず皆ほほえむ。

長い坂道も終わり、野川内地区に入ると民家の庭先の鶏頭が紅・赤・黄の艶やかな色にそまって目を引き、小鳥の餌になるであろう熟れたカキも所々にみられた。

伊木力地区に着くころには、みかん祭りも終わり、大草付近も閑散としており、しかたなくお土産を農産物直売所で求め、喉が渴いたのか最後の仕上げにミカンシャーベットをほおぼる数名がいた。

今回の山行は疲労感もなく、快い1日を過ごせた。ただルート道がほぼ100%AS舗装だったのが物足りなさを感じたが、その反面O・H・Cメンバーとの親交が深まった気がしている。

また機会があれば出来るだけ参加したい。

最後に企画・運営をされた方々に感謝します。有難うございました。以上（工藤 記）





❖えびの岳頂上にて横断幕を掲げて。
横断幕の字は林(和)さんの御主人によるものです。
↓烏帽子岳に登った仲間佐原さんを囲んで。



白鳥頂上で熱心に地図をレクチャーするチズピー



雨も嵐もかき分けて韓国岳登頂 15名

おれんじニュースNo285	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013.11.27
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com/

今年も残り少なくなってきましたね。おれんじニュースも大分紅葉の写真が掲載されてきました。あちこちの紅葉の写真をおくっていただきましたが全部掲載出来ないのが残念です。これに懲りずにまた送って下さいね。Mさんにはスケッチも期待しています。山下